

St. Luke's International University Repository

ラーニングアシスタントを対象とした看護技術習得支援についてのアンケート調査報告

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2024-03-19 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 佐居, 由美 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.34414/0002000174

実践報告

ラーニングアシスタントを対象とした 看護技術習得支援についてのアンケート調査報告

佐居 由美

Questionnaire Survey on Nursing Skill Acquisition Support for Learning Assistants in the College of Nursing

Yumi SAKYO

〔Abstract〕

St. Luke's International University College of Nursing introduced Learning Assistants (LAs) in 2018 to support lower level students in the self-study of nursing skills. Recently, a web-based questionnaire was administered to LAs with the aim of supporting them more effectively.

The survey was conducted in February 2023, and the response rate was 59.2%. LAs recognized that they could relearn nursing skills through certain activities that were linked to students' personal growth. Additionally, receiving self-learning support from senior LAs was a reason for applying for LA positions, and a cycle was formed in which junior students aspired to become LAs by viewing senior LAs as role models. Another suggestion for the nursing skills self-learning program, wherein both senior and junior students learn together, was for junior students to build an ideal image of themselves as future nursing students based on their admiration for senior LAs.

Survey responses revealed that LA activities had various effects on lower level students and LAs. To maintain the self-learning support activities for aspiring LAs, an environment must be created that facilitates engaging LA activities and trains LAs by providing a more extensive orientation on subjects that LAs find difficult.

〔Key words〕 Learning Assistant, nursing skills, self-learning, web questionnaire

〔要 旨〕

聖路加国際大学看護学部では、2018年度より下級生の看護技術自己学習の支援を行う目的で、ラーニングアシスタントを導入している。今回、支援内容をよりよくすることを目的に、LAを対象にwebアンケートを実施した。

アンケートは2023年の2月に実施し、回答率は59.2%であった。LAは活動を通して看護技術の再復習が出来たと自覚し、LA活動が学生自身の成長に繋がっていることが明らかとなった。また、LAに応募するきっかけとして先輩LAに自己学習支援をしてもらった経験があり、上級生LAをロールモデルとして下級生がLA志望をするというサイクルが形成されていた。先輩と下級生が共に学ぶ看護技術自己学習の場において、下級生は先輩LAの姿に憧れ、近い将来の看護学生としての理想像を築くことも示唆された。

本アンケートにより、LA活動の場が下級生やLA双方に様々な効果をもたらしていることが明らかとなった。今後もLAによる下級生への自己学習支援活動を維持するため、LAが困難に感じた内容についてのオリエンテーションをより充実させるなど、LAが活動しやすい環境づくりやLA育成に努めていく必要があると考える。

〔キーワード〕 ラーニングアシスタント, 看護技術, 自己学習, アンケート調査

I. はじめに

昨今の人口及び疾病構造の変化や療養の場の多様化を踏まえ、複雑な看護の対象に応じた看護を創造する能力が求められている。一方、入院期間の短縮化や患者の権利擁護が重要視され、学生が病棟実習において経験できることには限りがある。厚生労働省は「実習前後の講義や演習、振り返り等を積極的に活用し、学生の主体的な学びができる教育方法の推進」を提唱しており¹⁾、学生が自ら学び考える環境を整えることの重要性がますます高まっている。しかしながら、看護学導入期の学生は、医療機器や看護技術モデル等の扱いや看護技術習得に向けた学習過程に不慣れであり、講義等で机上での学習を行っていても、既習の内容を体現し、自己学習を円滑に進めることは困難なことが多い²⁾。

聖路加国際大学（以下、本学）では、2018年度より下級生への看護実習室（以下、実習室）での基礎看護技術の自己学習支援を行う目的で、ラーニングアシスタント（以下、LA）を導入している。上級生のLAが自分の経験や学習内容を踏まえて、協学補助者として下級生への支援を行うことで、自己学習に不慣れな学生も主体的に学習を進めることができ、学習意欲継続にも貢献するなど一定の成果をあげている³⁾。

今回LA導入から5年が経過するなか、下級生への自己学習支援をよりよくすることを目的に、LAを対象としたwebアンケートを実施した。本稿ではアンケート調査の結果と今後の課題について報告する。

II. LA活動の概要

1. LA登録者

2022年度に自己学習支援のLAに応募した学生は看護学部3年生16名、看護学部4年生11名であった。

2. 自己学習支援の内容

本学看護学部1・2年生は実習室の開放時間に、ヘルスアセスメント技術や基礎看護技術（看護学部1年生必修科目：ヘルスアセスメント方法論、看護学部2年生必修科目：基礎看護技術論Ⅰ・Ⅱ）の習得のために自己学習を行っている。具体的な看護技術練習内容は以下の通りである（表1）。

3. 自己学習支援に向けた準備

LAは下級生への自己学習支援のため関連科目の教授内容の確認および具体的な支援方法について担当教員と

表1 看護技術演習項目

科目	看護技術項目
基礎看護技術論Ⅰ	- 全身清拭・寝衣交換／陰部洗浄 - 車椅子移動／体位保持 - 就床患者のオールリネンチェンジ／毎日のベッドメイキング - 洗腸／導尿／吸引／食事介助／口腔ケア - 便器尿器のあて方
基礎看護技術論Ⅱ	- 皮下注射／筋肉内注射／静脈内注射 - 採血
ヘルスアセスメント方法論	- バイタルサインズ測定 - 腹部の打診聴診 - 呼吸音の聴診 など

のミーティングを行う。そして、直接的支援にあたり対応が困難な事象については、同席する実習室助手の助言を受けながら実施する。さらに、活動後には毎回メンバー全員と実習室助手および教員間で、当日の具体的支援内容をwebクラウドで共有し、自己学習支援が途切れることなく実施されるよう工夫している。

III. アンケート調査

1. 調査期間

2022年度のLA活動が終了した2023年2月に実施した。

2. 調査内容

LA27名を対象に無記名のwebアンケートにて実施した。アンケートの内容は、LA応募のきっかけや活動時に支援してほしいと感じたこと、活動時困難に感じたこと、LA活動を通して学んだこと等、全10問（選択式6問、自由記述4問）であった。

3. 倫理的配慮

Webアンケートの冒頭に、本調査は、無記名のため個人が特定されないこと、回答結果は集計して公表されること、質問への回答は回答者の自由意志にて行っていくこと、そして、これらを踏まえたうえで、本調査に協力する意思のある場合は、webアンケートに回答してください、と記した。また、アンケート依頼は、対象者の成績評価に関与しない者が行った。

IV. 結果

LA27名のうちアンケート回答者は16名であった（回答率59.2%）。学年別では、学部3年生が11名、学部4年生が5名だった。

1. LA応募のきっかけ

LAに応募したきっかけ（単一回答）としては「自分の勉強になるため」が全体の約7割（69%）を占めており、最も多かった。次いで「昨年もLAとして活動したため」が13%、「先輩LAに自己学習支援してもらったため」「先輩LAに“LAを経験すると就活とかで便利”と誘われたため」「アルバイト代のため」と続いた（図1）。

2. LA活動に際し支援してほしいこと

LA活動を行うにあたってサポートが必要な内容（選肢肢、複数回答）として「LA活動の技術復習用物品の配布」や「自己学習支援内容の事前共有」「看護技術の復習時間の設定」といった自己学習支援の準備に関連す

る内容が多く上がった。さらに、「下級生とのコミュニケーション対応」についての支援を必要とする回答もみられた（図2）。

3. LA活動を実施して困難に感じたこと

LA活動を実施して困難に感じたことについて、自由記載を求めたところ11件の回答があった。記述内容を意味のまとまりごとに類似性や相違性を比較しながら【カテゴリー】に分類した。具体的な学生の「自由記述」と共に一部紹介する（表2）。

1) 【知識や技術不足に関する困難】

「意外と細かいところ（手順など）を質問されて、思

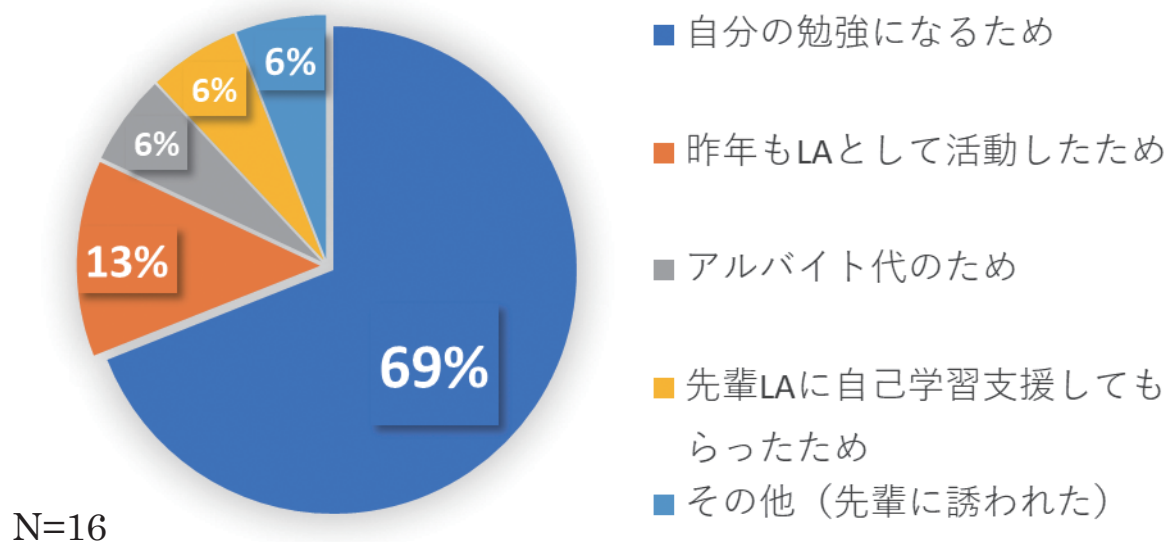


図1 LA応募のきっかけ（単一回答）

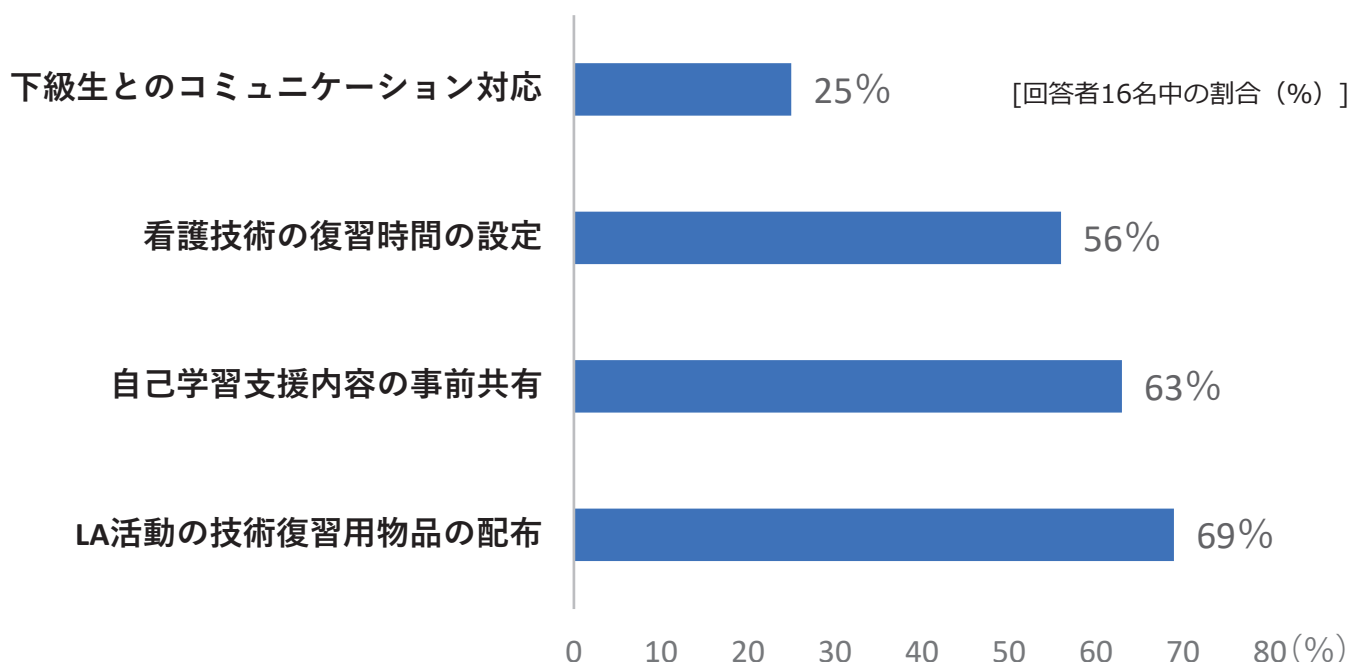


図2 LA活動に際して支援してほしいこと（複数回答）

い出せなかった」「自分たちが（1・2年生のときに）コロナ禍で練習できなかったため、実際の手技でのアドバイスが難しかった」というように、下級生への支援に必要な知識や技術の不足を感じていた。なかには、コロナ禍で看護技術練習の機会が制限されていたことで、下級生への看護技術の教授支援に難しさがあるとの回答もあった。

2) 【下級生の状況に合わせた教授方法の難しさ】

LAは「下級生が（自ら）調べることや経験することから学べるものは大きい」とあるように、どこまでLAが教えていか困った」とあるように、下級生に主体的な自己学習を促すための支援方法に迷いを感じていた。また、（学生がタイマーを使って練習しているときに）「どのタイミングで話しかけるべきか（迷った）」というように、個々の対象者の状況に応じた支援をすることの難しさを感じていた。

3) 【自分たちが習ってきたことと異なる】

LAは「自分たちが習ってきたことと下級生が習ってい

ることに差がある」と、年度ごとに科目の教授内容が異なり、LAが習っていない内容について下級生に教授支援することに困難さを感じるという回答がみられていた。

4) 【スケジュール調整が難しい】

LAは講義や実習の合間にLA活動を行っている。学生のなかには「実習との関係で参加が難しい」といった学生生活とLA活動の両立が難しいという内容があった。

4. LA活動を通して学んだこと、自分が成長できたと感じたこと

LA活動を通して学んだことや自分が成長できたと感じること（選択肢、複数回答）について、回答者16名全員が「自分の看護技術を再復習できた」と選択していた。続いて、「学習に対する意欲が向上した」が75%、「誰かに何かを伝えることが得意になった」が31%、「コミュニケーションがうまくなった」が25%を占めていた（図3）。

表2 LA活動で困難に感じたこと（自由記載）

内容	
知識や技術不足に関する困難	・意外と細かいところ（手順など）を質問されて、思い出せなかったとき ・答えがないことや自分の経験、知識不足により自分だけでは答えるのが難しいことがあった ・コロナで練習できなかったため、実際の手技でのアドバイスが難しかった。自分も一緒にやりながらこのやり方が一番いいんじゃないかというのを後輩たちと模索していました
下級生の状況に合わせた教授方法の難しさ	・下級生が調べることや経験することから学べるものは大きい、どこまでLAが教えて良いか困った ・特に技術実践のコツを聞かれた際に、そのコツを言語化して伝えることが難しかった ・（下級生がタイマーを使って練習しているときに）どのタイミングで話しかけるべきか
自分たちが習ってきたことと異なる	・自分たちが習ってきたことと下級生が習っていることに差がある ・私が授業を受けた頃に先生に教えてもらったやり方、学生が教わったやり方がそれぞれ異なっている場合もあり、どれが正解なのか困ってしまったことがあった ・カリキュラムが変わっていたり先生が変わっていたりすると、後輩と自分が教わったことに違いがあることがあり、その点はどのように教えたら良いか悩んだ ・私たちはコロナ禍でオンラインだったため、テスト方法の質問に答えることができなかった
スケジュール調整が難しい	・実習との関係で参加が難しい

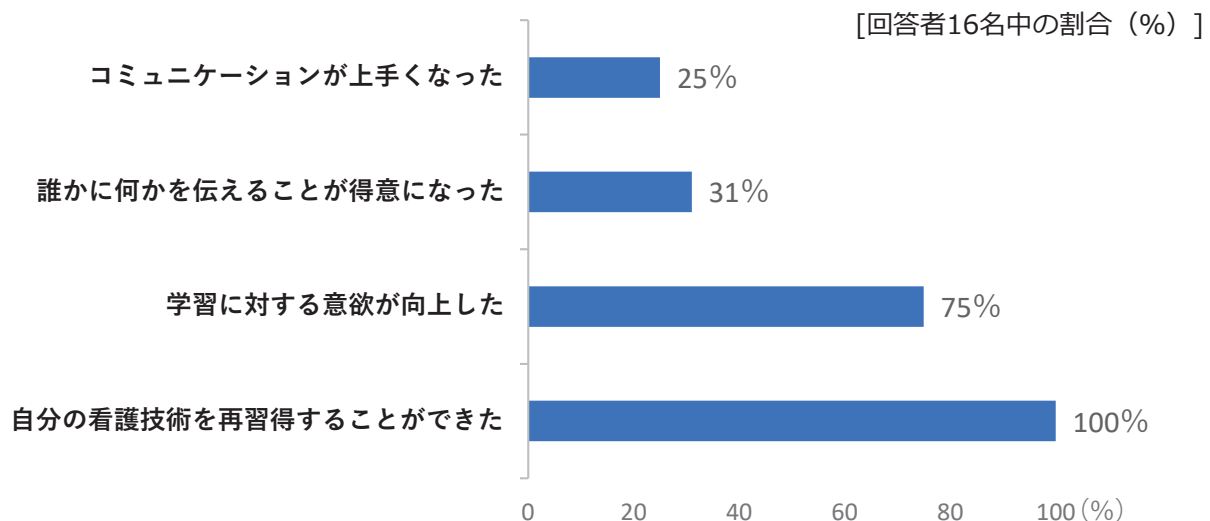


図3 LA活動を通して学んだことや自分が成長できたと感じたこと（複数回答）

V. 今後に向けて

LAは自己学習支援活動を通じて既習の看護技術を再復習することができたと自覚し、LA活動が学生自身の成長に繋がっていることが明らかとなった。特に現在の看護学部3・4年生は、コロナ禍で十分に実習室での自己学習時間を確保できなかった学生であった。そのような逆境にあるなかでも、「後輩たちと模索しながら」看護技術を錬成する様子が見られていた。LAが活動に際しサポートが必要な内容として、「LA活動の技術復習用物品の配布」や「看護技術の復習時間の設定」を挙げたことも、前述した学生の背景が影響しているものと考えられる。LAが1・2年生の時期にどのようなカリキュラムを経ているのかを十分に把握し、それに応じてLAの事前準備時間の確保等を検討する必要があることが示唆された。

さらに、LAに応募した学生のなかには「先輩LAに自己学習支援をしてもらった」経験から、自身もLAとなることを志望する者もいた。上級生の姿をロールモデルとして、下級生がLAを志望するサイクルが成立していた。このサイクルの土台には、学習者の立場に寄り添った支援を受けられた肯定的体験が影響しているものと考えられる³⁾。先輩LAと共に学びを深めるなかで、「自分もいつかこうなりたい」という自己の理想像を描く契機にもなっていたことがうかがえた。

また、LAは看護学部3～4年のカリキュラムを経て「自分で調べることや経験すること」の重要性を実感し、後輩を支援する際には「全て教えすぎない」ように関わっていた。学習者が主体となって練習するという核心をおさえた支援方法は、学習者を孤独にせず、かつ、いつでもわからないことを尋ねられる安心感も与えていたのだろう⁴⁾。そうした関わりが学生の自己効力感を高め、わからない事象に対して自分で答えを模索していくという学習への意欲を掻き立てることにつながったと考えられる。

こうした学習者主体の活動は、今後も後輩に受け継がれて発展していくことが期待される。今回のアンケートで明らかとなったLAが困難に感じた内容について、事前のオリエンテーションをより充実させるなど、LAの意見を反映させながら、LAが活動しやすい環境づくりやLA育成に努めていく必要があると考える。

謝 辞

アンケートにご協力くださったラーニングアシスタントの皆様、お忙しいところ、ありがとうございました。皆さんの活動が下級生の学びをよりよいものとします。実習室助手の緒方優先生、いつも丁寧に優しく、細やかにラーニングアシスタントさんに対応いただき、また、何より、LA活動がよりよいものとなるようご活動いただき感謝いたします。樋勝彩子先生、看護学導入期の学生の教育活動に意義ある示唆をくださり、ご尽力いただきますこと、深く御礼申し上げます。最後に、ラーニングアシスタント活動を可能にしてくださっている皆様に、心より感謝申し上げます。

引用文献

- 1) 厚生労働省. 看護基礎教育検討会報告書. [Internet] <https://www.mhlw.go.jp/content/10805000/000557411.pdf> [参照2023-10-15]
- 2) 佐居由美, 石本亜希子, 伊東美奈子. 看護学導入期の学生の困難性に対応したWeb教材の開発. 聖路加看護学会誌. 2011;15(1):17-26.
- 3) 佐居由美, 鈴木彩加. 看護技術習得を支援するラーニング・アシスタント制度の活用に関する実践報告. 大学教育研究ジャーナル. 2020;17:15-21.
- 4) 佐居由美, 緒方優, 高妻美樹. コロナ禍における看護学部ラーニングアシスタントによる学習支援. 大学教育研究ジャーナル. 2021;18:13-9.